

若葉台小学校の工事の入札方法は

糸川 敏男（たちかわ自民党・安進会）



問 若葉台小学校の新設工事については、平成25年2月に複合施設として建築工事に着工し、新設された第一小学校の建設工事を参考にすべきと考えます。第一小学校の工事の入札では、地元地域への貢献措置を加点要素とした総合評価方式で行われました。実際、落札業者による自治会への協力やイベントへの参加等、地元への効果がありました。若葉台小学校の建設工事でも、地元地域への貢献が加点となる総合評価方式での入札を検討できないか。

答 若葉台小学校の建設工事は、工事の内容や規模、工期、発注時期等を勘案し、最も適した入札方法の選択に向け、現在検討を進めています。総合評価方式は、市の入札等監視委員会から、発注者側の恣意性が働く可能性があるとの指摘や、官公庁発注の同方式に係る事件等も報道されています。本市としては、工事の特殊性や難易度を含めた施工内容等を考慮し、入札方法を選択していきたい。

その他の質問項目

- 通学路の安全確保について
- 柴崎中央公園について

公園にバスケットゴールの設置を

松本 マキ（マキおこせ！市民力）



問 本市の公園は、ボール遊び禁止となっていますが、あまり利用されていない公園にバスケットボールの練習ができる設備を設置できないか。市内には、プロバスケットボールのチームが2つあり、まちを挙げてバスケットボール人気を作り出すチャンスになると考えます。近隣の昭島市、国分寺市、小平市には、バスケットゴールを備えた公園があります。一律に禁止するのではなく、ボール遊びができるよう何とか工夫していただきたい。

答 現在市内では、見影橋公園内にスリー・オン・スリーのコートが設置されており、バスケットボールができる公園となっています。公園は、すべての年齢の方が自由に利用できる場であるため、利用空間の制限を行うには地域との合意形成が重要であり、難しいと考えていますが、他市の例も参考に、他の公園利用者に支障が出ないかなどの課題について研究し、設備の設置について検討していききたい。

その他の質問項目

- 部活動及び地域のスポーツ振興について
- 安全安心なまちづくりについて
- 富士見町のまちづくりについて



駐輪警告札

「フレイル」とは

フレイルとは年をとって心身の活力(筋力、認知機能、社会とのつながりなど)が低下した状態。多くの人が健康な状態からこのフレイルの段階を経て、要介護状態に陥ると考えられている。



バスケットボールができる見影橋公園

高齢者にとって魅力的な介護予防策を

伊藤 幸秀（公明党）



問 高齢社会を支えるため、要介護にならないための介護予防の取り組みは不可欠と考えますが、本市の状況について伺います。また、地域ぐるみで介護予防、フレイル予防を一体的に行うことで、健康寿命の延長にもつながるのではないかと。介護予防事業は、民間の力、地域の力、市民の力を引き出していくべき分野と考えるが、見解をお示しください。高齢者にとって魅力があり、参加してみたいと思われる事業にしていきたい。

答 介護予防事業として、自立化を前提とした地域体操クラブ事業や、市民が主体的に活動している団体に、健康体操応援リーダーを派遣する事業を実施しています。フレイル予防には、定期的に社会とつながりを持つことがとても重要であり、今後とも通いの場の育成に積極的に取り組みます。また、国の交付金を活用し、高齢者の自立支援、重度化予防等必要な事業を積極的に実施していききたい。

その他の質問項目

- まちの安全安心について
- 子育て支援について
- 防災について

性の多様性を認め合えるよう積極的な施策を

中町 聡（日本共産党）



問 日本の社会では、LGBTの正しい知識がまだまだ浸透していません。正しい知識を広め、差別をなくすために、もっと大々的に取り組むべきと考えますが、新たな施策を行う予定はあるのか。LGBT当事者は生きづらさを抱えており、精神的サポートをする専門の相談窓口は大切です。設置を前向きに検討できないか。また、他市のようにステッカーを配布するなど、本市も性の多様性を受け入れる市だとアピールする考えは。

答 本市では、職員や市民を対象としたLGBTの理解を深める研修や講座を開催しており、今後もさまざまな機会をとらえ、啓発を続けることが必要だと考えています。また、女性総合センターでカウンセリングを行っています。専門の相談窓口については、他自治体の動向を踏まえ検討していききたい。ご紹介のような取り組みを行う予定はありませんが、LGBTも含め、人権尊重の取り組みを地道に進めていききたい。

その他の質問項目

- 西国立駅周辺のまちづくりについて
- 市内のゴミ処理事業について

立川駅南口の違法駐輪 具体的な対策を

江口 元気（たちかわ自民党・安進会）



問 立川駅南口周辺では、市がさまざまな環境改善の取り組みを行っていますが、依然として客引き行為等の迷惑行為が横行しています。特にグランデュオ前からずらん通りにかけての違法駐輪は、突出して多く、夜間に歩行者が車道を歩かなければならないほどで非常に危険です。すぐに取り組めること、中長期に取り組めることは何なのか。また、汚れたり破損している違法駐輪の警告看板への対応、警告札についての見解を伺います。

答 現在、夜間の違法駐輪への対応として、立川南口商店街連合会との協議や放置車両台数等の実態を調査しています。9月には立川警察署や地域と連携し、チラシ配布等の周知啓発を行います。今後夜間撤去について、他自治体の事例等も参考に検討していききたい。落書きや傷等がある警告看板については、更新や撤去の対応をしたい。警告札は、自主的な車両の移動に対して一定の効果があると考えています。

その他の質問項目

- 暑さ対策について
- 広域連携について
- 市の政策策定プロセスについて

児童虐待防止は、妊娠がわかった時から

伊藤 大輔（未来日本立川・国民民主）



問 児童虐待を防ぐため、妊娠がわかった時点から、乳幼児健診、保育園等あらゆる機会を通じて、子どもの健康と安全を確認できる仕組みが必要です。妊婦面接、各種健診等がありますが、受診率100%のものはありません。妊娠中から産後1年までの時期の早期かつ継続的な支援が、虐待防止につながることも、産婦人科等との連携や、ワンストップ型の子育て世代包括支援センター設置の取り組みを進めるべきと考えますが、見解を伺います。

答 妊娠届を受理する庁内部署や医療機関との連携を強化し、妊婦サポート面接の面接率向上を目指しています。今後は産科との連携強化を図ります。出産後は、各種健診や保育園入園時等、児童確認の機会はかなり確保されていますが、確認できなかった場合は、訪問調査等を実施しています。子育て世代包括支援センター設置については、平成32年度までの設置を目指し、事業等の検討を進めていきます。

その他の質問項目

- 特別支援教育の充実